

第51回「おかねの作文」コンクール

「まあいっか」のお金

福岡県・筑紫女学園中学校 3年 吉満 愛子

「夏休み、このお金で済むように、考えて過ごしてね。」

そう言って母は私に3万円を渡した。私は今まで、これほどの大金を持ったことがなかった。そう思うと、母が自分を信頼してくれているということを嬉しく思い、この3万円を計画的に使おうと思った。

約1か月間、つまり約30日の間で3万円を使い切るとすれば、1日1,000円ずつ使えばよい。塾までの行き帰りの電車代である500円を差し引くと、実質的には1日500円使えることになる。つまり、500円の中で必要なことを済ませる、ということ。

「なんだ、余裕じゃん。」

と思った。実際、初めの1週間はよかった。しかし、本当に苦しくなるのはそれからだった。

1週間くらい経ったある日、所持金を確認して、思わず目を丸くした。1週間しか経っていない時点で、もう既に1週間に使う予定の金額を大幅に超えていたからだ。どこでそんなに使ったのだろうか。そんな疑問が私の脳をよぎった。そこで私は、過去1週間分のレシートをある分だけ集め、原因を追究してみることにした。すると、1日500円と決めていたはずが、少し超えてもいいだろう、ちょっと買ってでもいいだろう、などのような「まあいっか」という気持ちが原因であることが分かった。自覚がない間にこんなにもそのようなお金が積もっていたのかと思った私は、少しお金の使い方を考え直そうと決心した。

そこで私は、自分なりの二つのルールを決めた。まず、毎日決まった金額だけしか財布に入れて行かないようにすること。そうすることで、出来るだけ「まあいっか」のお金を減らせると思ったからだ。二つ目はその日に使ったレシートを記録し、無駄に使った費用はなかったかを確認すること。これを行うことで、次の日に無駄なお金を使うことを防ぎ、結果的に多くのお金を節約出来ると考

えたからだ。

そして夏休みが終わろうとしている今、私はお金の使い方のリズムが整ってきている、と満足している。思えば自分でお金の使い方を考え直し、自分なりのルールを決め、意識的に使ったのは初めてかもしれない。以前の私というのは、週に決まった金額はもらえるものの、それをただ無計画に使い、足りなくなつては来週に分から、と自ら自分の首を絞めていた。今思うと、もっと早くお金の使い方を考え直していればよかったと思う。そうすることで、無駄なお金を使うこともなく、苦しい思いをすることもなかったように思う。

私が今回、夏休みを過ごしてみて、私たちが生活の中でお金を使う時、「まあいっか」のお金というのは、かなりの無駄になっているのではないだろうかと思った。「まあいっか」のお金は簡単に言うと自分に対しての甘えと同じだ。例を用いて考えると簡単だろう。

例えばここにAさんがいたとしよう。Aさんは喉が渴いていたため、近くのコンビニで飲み物を買うことにした。最初は水でいいと思っていたAさんだったが、いざ色々なドリンクが売られているのを見てみると、急に気分が変わってきた。でも、ジュースを買うとなると、水よりも値段が高くなる。まあでもたったの30円だ。そう思ったAさんは、結局、最初におおうとしていた水ではなく、30円高いジュースを買うことにした。

こんな経験はないだろうか。実際私はほぼ毎日のようにある。別に我慢し続ける、と言っているのではない。しかし、よく考えてみてほしい。このような出来事が毎日だとしたらどうだろう。私の中学生の期間をジュースの例で考えてみよう。1日30円の余分なお金は1か月で900円、1年間では1万800円になる。それが中学3年の夏休みまでの2年半だとすると、私は2万7,000円のお金を無駄にしていると言える。これを多いと感じるのか少ないと感じるのは人それぞれだと思う。しかし、この約3万円のお金をもっと有益に使うことは出来たのではないだろうか。

私はこの作文を書きながら、自分が約3万円も無駄にしていたことに驚いた。これから大人になり、もっとお金に触れる機会が増えるだろう。1日たった30円の「まあいっか」のお金。それを減らしていくことで、私たちはお金の使い方を考え直すことが出来るのではないだろうか。